



～「土曜学習」とは～

年に数回行っています土曜学習は、子どもたちの学習意欲を高めたり、興味・関心を引き出して、調べる力や考える力、まとめる力の他に、話を聞く力や質問する力、感想や考えを言う力などを育んだりする機会としています。

学習活動においては、自然科学に関する学習や漢字検定に向けての学習を行うことを通して、学校教育目標の一つである「自ら主体的に学ぶ子」を育てていきます。

体験活動においては、活動を通して、地域との交流を深め、学校教育目標の一つである「地域を愛する子」を育てていきます。

今年も、諸団体や地域の皆様方のお力添えをいただき、「ホテルに連れられまち歩き」、「飯盒炊さんをしよう」、「学校にとまろう」、「松ヶ崎子どもフェスティバル」、「里山ウォークラリー」、「元素の話」を行ってきました。

そして、これからは、「漢字教室」（平成28年1月9日）、「お正月を楽しもう会」（平成28年1月16日）、「漢字検定」（平成28年1月30日）を行う予定です。

引き続きご協力をいただくこととなりますが、どうぞよろしく願いいたします。

元素の話

12月19日（土）9：30～11：30 於：ふれあいサロン

京都薬科大学名誉教授 元素周期表同好会
薬学博士 桜井 弘先生



今年も、学校運営協議会理事 北野正彦先生のご協力のもと、京都薬科大学名誉教授 元素周期表同好会 薬学博士桜井弘先生をお迎えして、土曜学習『元素の話』を行いました。

桜井先生をお迎えして、お話を聞くのは、今回で4回目になります。

保護者の方を含めた約30名の参加者は、3グループに分かれ、先生のお話を聞いたり実験をしたりしました。そして、最後には、えれめんトランプを教わって楽しみました。

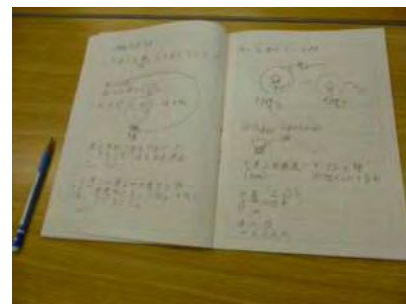
「元素とは何だろう？ イオンとは何だろう？ 身のまわりに元素やイオンがあるのだろうか・・・。」という難しいお話ですが、子ども達は、熱心に、先生のお話を聞いていました。

・・・
原子（元素）とは…身のまわりのものを小さくくだけで、これ以上小さくならないというまで小さくしたものだ。イオンとは…原子やいくつかの原子からできているグループが、+（プラス）または、-（マイナス）の電気をもった状態になっているものこと。
・・・

メモをとって聞いている子どもや、先生の問いかけに答える子ども・・・。
関心の高さが伺えました。

イオンという言葉がどうして生まれたかというお話もしていただきました。

・・・
1800年頃、イタリアのボルダ（1745～1827）が初めて電池を発明しました。
この電池を使ってイギリスのデーヴィー（1778～1826）は、カリウム、カルシウム・・・6つの元素を発明しました。
その弟子ファラデー（1791～1867）は、物質は電気を流すと電気の影響を受けて分解し、それが電極に向かってくることを考えました。
・・・



～先生は本の紹介もしてくれました。～

ファラデーは科学者として、たくさんの立派な業績を残したばかりでなく、また、人間としても心の美しい人だったそうです。そのことは、

「心に太陽を持って」山本有三著（新潮社）の第8話「製本屋の小僧」に書かれているそうです。ぜひ、読んでみてください。

また、ファラデーが子ども達に残した唯一の本。69歳（1860）の時、クリスマスの前の晩に、子ども達を王立科学研究所に集めて聞かせた話を、ファラデーの親友が書きとめたもの。それは、

「ろうソクの科学」ファラデー
ろうソクを通して、科学の原理がよく分かるそうです。この本もぜひ読んでみてください。

さて、いよいよ実験です。それぞれ、電気を通すかどうか、簡易テスターを使って実験です。イオンがあると電気が流れます。そして、簡易テスターが光ります。

- ① 岩塩（食塩の結晶）
- ② 岩塩の結晶に水を加えたもの
- ③ 砂糖の結晶
- ④ 砂糖の結晶に水を加えたもの
- ⑤ メントール（はっか）の結晶（有機化合物）
- ⑥ 鉛筆の芯
- ⑦ 1円玉、5円玉、十円玉、五十円玉、百円玉
- ⑧ 針金
- ⑨ けしごむ
- ⑩ その他（自分で試して）



答えは、①× ②○ ③× ④× ⑤× ⑥○ ⑦○ ⑧○ ⑨× ⑩については、子ども達がいろいろと試していたようです。めがねのふちは○、定規は×、筆箱も×、ただし磁石の部分は○・・・。

これから、さまざまなものを見た時、これは電気を通すのかどうか関心をもってほしいと先生はおっしゃいました。最後にえれめんトランプです。



保護者の方もグループに入ってください、一緒に楽しみました。

お忙しい中、教えていただきました 桜井先生 北野先生 ありがとうございます。
参加していただきました保護者の皆様ありがとうございます。